

Ver 2.1

オフセット・クレジット(J-VÉR)制度に基づく
温室効果ガス排出削減・吸収プロジェクト申請書
～森林管理プロジェクト用～

プロジェクト名	徳島県那賀郡那賀町における森林吸収源事業
プロジェクト 代表事業者名	株式会社フォレストバンク 印

提出日 平成 21 年 5 月 15 日

A: 参加者情報

プロジェクト代表事業者 ※1			
事業者名(フリガナ)	株式会社フォレストバンク		
住所	徳島県徳島市山城町東浜傍示 5-230		
代表者氏名	岡田 育大	担当者氏名	岡田 育大
担当者所属		担当者役職	代表取締役
担当者 E-mail	okada@forestbank.co.jp	担当者電話番号	090-4972-9724
プロジェクト事業者 ※2			
事業者名(フリガナ)	株式会社フォレストバンク		
住所	徳島県徳島市山城町東浜傍示 5-230		
代表者氏名	岡田 育大	担当者氏名	岡田 育大
担当者所属		担当者役職	代表取締役
担当者 E-mail	okada@forestbank.co.jp	担当者電話番号	090-4972-9724
その他プロジェクト参加者 ※3			
事業者名(フリガナ)			
住所			
代表者氏名		担当者氏名	
担当者所属		担当者役職	
担当者 E-mail		担当者電話番号	
プロジェクトでの役割			
オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者 ※4			
事業者名(フリガナ)	株式会社フォレストバンク		
オフセット・クレジット (J-VER)口座番号 ※5			

※1:プロジェクト代表事業者のパンフレット等、事業内容の説明資料を別途添付すること。代表者以外の主なプロジェクト参加者についてもパンフレット等があれば添付すること。

※2:プロジェクト事業者とは、当該プロジェクトの実施に携わる者のうち、実際に温室効果ガス排出削減・吸収活動を実施する者を指す。代表者と同一の場合は、その旨を記載すること。

※3:その他プロジェクト参加者とは、プロジェクト代表事業者・プロジェクト事業者以外に当該プロジェクトの実施に携わるすべての者を指す。たとえば、下記が参加者として想定される。

- ・ 温室効果ガス排出削減・吸収活動のとりまとめを行う者
- ・ 温室効果ガス排出削減・吸収活動の実施に際して設備導入等のアドバイスを行う ESCO 事業者等

※3:プロジェクト参加者が複数いる場合には、それぞれの参加者の役割及び関係の概要を説明した資料を添付すること。

※4:オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者は、プロジェクト参加者(代表者、プロジェクト事業者、その他)のうちいずれかであること。

※5:オフセット・クレジット(J-VER)口座番号は、口座未取得の場合は記入不要。

B:プロジェクト活動の概要①

プロジェクト
活動 ※1

■プロジェクトの目的

国産の木材利用の減少及び木材の値段の低下により、森林の管理の採算が取れなくなったため、間伐が行われなくなった森林に対し、追加的に間伐を実施することで CO2 の吸収源を整備することを目的とする。

■プロジェクト実施前の状況

(1)森林現況

本プロジェクト対象地である徳島県那賀郡那賀町の森林現況は次のとおりである。

i. 森林タイプ別

	施業計画対象森林		間伐対象森林	
	面積(ha)	材積(m ³)	面積(ha)	材積(m ³)
人工林	1,187	352,851	465	139,675
天然林	429	54,922	0	0
その他	6	0	0	0
合計	1,622	407,773	465	139,675

施業計画対象森林においては、全体の73%が人工林となっており、間伐対象森林はすべて人工林である。市町村森林計画における間伐率は30～40%となっている。

ii. 樹種別

	施業計画対象森林		間伐対象森林	
	面積(ha)	材積(m ³)	面積(ha)	材積(m ³)
杉	1,056	324,704	465	139,675
ヒノキ	129	28,044	0	0
その他	437	55,025	0	0
合計	1,622	407,773	465	139,675

施業計画対象森林の65%が杉であり、間伐対象森林はすべて杉である。

iii. 齢級別

	施業計画対象森林		間伐対象森林	
	面積(ha)	材積(m ³)	面積(ha)	材積(m ³)
5齢級以下	10	227	0	0
6～10齢級	1,331	320,465	433	124,960
11～15齢級	212	55,658	32	14,715
16齢級以上	67	31,423	0	0
合計	1,622	407,773	465	139,675

施業計画対象森林の82%が30年生～50年生となっており、間伐対象となっている森林の平均樹齢は43年である。市町村森林計画における間伐率は30～40%となっており、

	<p>10齡級で主伐が行われる計画であったが、実際は主伐が行えるような状態ではない。</p> <p>iv. 立木密度</p> <p>間伐対象森林の立木密度は 1500 本～2000 本/ha となっており、8 齡級～10 齡級における標準的な立木密度である 1000 本/ha を大幅に上回っている。また、収量比数は同様に標準的な収量比数は 0.5 程度であるのに比べ、本プロジェクトの対象となる森林は 0.7 程度と比較的高い水準となっている。以上より、間伐前において、本プロジェクトの対象森林は高密な状態であったといえる。</p> <p>■ 排出削減・吸収の達成手段</p> <p>市町村森林計画における間伐においては、30%～40%の間伐率により比較的 40 年生～50 年生ぐらいでの主伐を計画しているが、本プロジェクトにおいては、木材価格の低迷を受け、施業計画の長期方針として、長期的な主伐をベースとし、80 年生～90 年生ままで育成させる計画をたてており、中期的には森林施業計画に基づき、間伐対象小班ごとに約 5 年ごとに 20%ずつ計画的な間伐を実施することで森林の CO2 吸収量を増加させる。間伐方法は、画一的に一定間隔で選木する機械的間伐(列状間伐)をベースに行うとともに、形質の悪い林木を主体に選木する下層間伐を行うものとする。なお、プロジェクト対象の間伐を予定している森林の種類は杉である。</p>	
<p>採用技術 ※ 2</p>	<p>3000 本/ha をベースに植林を行い、1ha ごとにプロットされたエリアにおいて、5 年ごとに 20%の間伐率で間伐を行い、80 年生～90 年生ままで育成させ、長期的な主伐を行う。</p>	
<p>プロジェクト 実施場所 ※ 3</p>	<p>実施事業所 名</p>	<p>株式会社フォレストバンク</p>
	<p>住所</p>	<p>徳島県那賀郡那賀町木頭折宇字大谷 2-1 徳島県那賀郡那賀町木頭折宇字蔭谷 10, 11 徳島県那賀郡那賀町木頭北川字千本 10-2、10-4、10-5</p>

概要

対象地域は、四国の屋根・剣山山地の南斜面に、深く谷を刻んだ那賀川の最上流部にあたり、標高約 1000m で古くから林業が営まれている。日本でも有数の降雨量があり年間総雨量は 4000mm に達することもあり、山地斜面は急である。

・県の中での位置関係が分かる地図

<徳島県>



<那賀郡那賀町木頭>

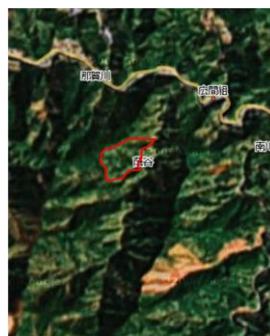


・対象森林の範囲(全体)が分かる地図

<千本谷地区>



<蔭谷地区>



<大谷山地区>



--	--	--

- ※1:プロジェクトの目的、プロジェクト実施前の状況、排出削減・吸収の達成手段を記載すること。
- ※2:プロジェクトで使用する設備・機器等について記載する。機器名称、機器メーカー名、型番、機器容量、法定耐用年数、導入年月、用途等について記載すること。プロジェクトが一般的に広く行われている技術に基づき実施される場合は、とくに記載する必要はない。
- ※3:地図や施設概要図等を用いて、プロジェクト実施場所について分かりやすく説明すること。その他、P.6 に記載する添付書類を添付すること。

B:プロジェクト活動の概要②

プロジェクト開始年月日 ※1	2008年4月1日						
クレジット期間 ※2	2008年4月1日～2013年3月31日						
想定排出削減 ・吸収量 ※3	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	420	1,067	1,067	1,067	1,067	4,690
補助金	受給の有無 (いずれかに○)	○受給している／申請中／検討中／受給しない					
	補助事業名称	治山事業、森林総合整備事業					
	補助金額 (申請額含む)	32,510,005 円					
	補助対象年月日	平成19年4月1日～平成21年3月31日					
他制度への申請 ※4	申請の有無 (いずれかに○)	有 / 無					
	制度名 (有の場合のみ)						
備考							

※1:クレジット期間は、2008年4月1日～2013年3月31日の間で設定すること。

※2:想定排出削減・吸収量の算定根拠をモニタリングプランで提示すること。

※3:海外のVER制度等、類似制度への申請の有無を記入。これは、一つのプロジェクトによる排出削減・吸収量に基づくクレジットが複数創出される等の、ダブルカウントを避けるためである。

	方法論名称	森林経営活動によるCO2吸収量の増大(間伐促進型プロジェクト)に関する方法論
備考		

※1: ポジティブリストの条件を全て満たすことを説明する。なお、投資回収年数等について記載しきれない場合には、別添資料で説明してもよい。

D:その他

<p style="text-align: center;">関連する許認可及び 関連法令等</p>	<p>プロジェクト対象森林のうち、下記プロジェクト対象は森林法上の保安林の指定を受けている。</p> <p>徳島県那賀郡那賀町木頭折宇字蔭谷 10, 11 徳島県那賀郡那賀町木頭北川字千本 10-2、10-4、10-5</p> <p>保安林(保安林の目的は、i 水源のかん養、ii 土砂の流出の防備、iii 土砂の崩壊の防備、iv 飛砂の防備、v 風害・水害・潮害・干害・雪害・霧害の防備、vi なだれ・落石の危険の防備、vii 火災の防備、viii 魚つき、ix 航行の目標の保存、x 公衆の保健、xi 名所・旧跡の風致の保存、である。)の指定(25 条)に際して、農林水産大臣・都道府県知事は、立木の伐採方法・限度、伐採後の植栽の方法・期間・樹種を明らかにした「指定施業要件」を告示等をし、施業者はそれに従った施業を要請される(33 条。詳細は、森林法施行令 4 条・別表 2)。</p> <p>保安林では、森林・林業施業に関して、以下の制限がかかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立木の伐採は、政令(11)で定めるところにより、都道府県知事の許可を受けなければ、してはならない。また、立竹の伐採、立木の損傷、家畜の放牧、下草・落葉・落枝の採取、土石・樹根の採掘・開墾その他の土地の形質の変更の行為についても、都道府県知事の許可を要する(以上 34 条)。 ・ 指定施業要件に定める立木の伐採方法に適合し、かつ、同要件に定める伐採の限度を超えない人工林の択伐については、都道府県知事に届け出なければならない(34 条の 2)。 ・ 間伐については、都道府県知事に届け出なければならない(34 条の 3)。 ・ 森林所有者等が保安林の立木を伐採した場合には、森林所有者等は、指定施業要件で定められている植栽の方法、期間、樹種に関する定めに従って伐採跡地に植栽をしなければならない(34 条の 4)。 <p>その他法令(鳥獣保護法、自然公園法など)の適用はなし。</p>
<p style="text-align: center;">環境影響評価 及び環境測定 ※1</p>	<p>該当なし。</p>

<p>住民説明会の 実施状況 ※1</p>	<p>該当なし。</p>
<p>ステークホルダー(森 林所有者、森林管理 者、森林管理費用負 担者等)のコメント</p>	<p>該当なし。</p>
<p>その他特記事項 ※2</p>	<p>プロジェクト対象となっている森林につき、台風などによる倒木の可能性がある。プロジェクト管理を行う会社によって継続的な見回り等が行われており、倒木などの吸収源としての機能を失った場合には、その時点で面積等を把握し、プロジェクト対象から外すことになる。かかるリスクへの対応策として施業対象地域の選定やプロジェクトポートフォリオの管理を行っている。</p>

※1:法令等によって実施が求められていない場合は省略可。

※2:プロジェクト活動を行う森林における生物多様性保全のための取組等について自由に記述することができる。

【添付書類】

<関連書類>

- ・ プロジェクト対象地が含まれている、市町村等に認定された森林施業計画の写し(施業対象の森林が特定される情報を含むもの)
- ・ 森林認証を受けている場合は、それを示す書類
- ・ 植林プロジェクトの場合は、植林後に森林法第 5 条の森林となることが証明できる書類

<森林の概要が分かる資料>

- ・ プロジェクト対象の森林について、緯度・経度等の地理的情報を含んだ森林計画図(オルソ画像があれば添付)
- ・ プロジェクト対象の森林の写真
 - ・ 小班ごとに森林の概要(立木密度、幹の形状、下草の状況など)が明確に分かる写真を添付すること
 - ・ 写真撮影は、モニタリング方法ガイドラインの「プロジェクト対象森林の写真撮影」を参考に行うこと
- ・ プロジェクトの対象となる森林を管理している主体の組織図(会社案内等)
- ・ プロジェクト申請書において、吸収・排出量の算定に用いたパラメータ等を引用した資料(文献)

Ver _____

オフセット・クレジット(J-VER)制度に基づく 温室効果ガス吸収プロジェクト申請書

プロジェクト名	徳島県那賀郡那賀町における森林吸収源事業
プロジェクト 代表事業者名	株式会社フォレストバンク 印

提出日 平成 21 年 9 月 29 日

受理日 平成 21 年 10 月 1 日

最終版提出日 平成 21 年 10 月 6 日

A-参加者情報	
※1:プロジェクト代表事業者	
事業者名(フリガナ)	
住所	
代表者氏名	担当者氏名
担当所属	担当所属
担当者Eメール	担当者電話番号
※2:プロジェクト事業者	
事業者名(フリガナ)	
住所	
代表者氏名	担当者氏名
担当所属	担当所属
担当者Eメール	電話番号
※3:その他プロジェクト参加者	
事業者名(フリガナ)	
住所	
代表者氏名	担当者氏名
担当所属	担当所属
担当者Eメール	担当者電話番号
※4:オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者	
事業者名(フリガナ)	
住所	
代表者氏名	担当者氏名
担当所属	担当所属
担当者Eメール	担当者電話番号

記入不要

- ※1:プロジェクト代表事業者のパンフレット等、事業内容の説明資料を別途添付すること。代表者以外の主なプロジェクト参加者についてもパンフレット等があれば添付すること。
- ※2:プロジェクト事業者とは、当該プロジェクトの実施に携わる者のうち、実際に温室効果ガス排出削減・吸収活動を実施する者を指す。代表者と同一の場合は、その旨を記載すること。
- ※3:その他プロジェクト参加者とは、プロジェクト代表事業者・プロジェクト事業者以外に当該プロジェクトの実施に携わるすべての者を指す。たとえば、下記が参加者として想定される。
 - ・ 温室効果ガス排出削減・吸収活動のとりまとめを行う者
- ※4:プロジェクト参加者が複数いる場合には、それぞれの参加者の役割及び関係の概要を説明した資料を添付すること。
- ※5:オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者は、プロジェクト参加者(代表者、プロジェクト事業者、その他)のうちいずれかであること。
- ※6:オフセット・クレジット(J-VER)口座番号は、口座未取得の場合は記入不要。

B: プロジェクト活動の概要①

	項目					
B.1 プロジェクト活動	B.1.1 プロジェクトの目的及び内容					
	<p>国産の木材利用の減少及び木材の値段の低下により、森林の管理の採算が取れなくなったため、間伐が行われなくなった森林に対し、追加的に間伐を実施することでCO2の吸収源を整備することを目的とする。</p>					
	B.1.2 プロジェクト実施前の状況					
	(1) 森林現況					
	<p>本プロジェクト対象地である徳島県那賀郡那賀町の森林現況は次のとおりである。</p>					
	i. 森林タイプ別					
			施業計画対象森林		間伐対象森林	
		面積 (ha)	材積 (m ³)	面積 (ha)	材積 (m ³)	
	人工林	1,187	352,851	465	139,675	
	天然林	429	54,922	0	0	
その他	6	0	0	0		
合計	1,622	407,773	465	139,675		
<p>施業計画対象森林においては、全体の73%が人工林となっており、間伐対象森林はすべて人工林である。市町村森林計画における間伐率は30～40%となっている。</p>						
ii. 樹種別						
		施業計画対象森林		間伐対象森林		
	面積 (ha)	材積 (m ³)	面積 (ha)	材積 (m ³)		
杉	1,056	324,704	465	139,675		
ヒノキ	129	28,044	0	0		
その他	437	55,025	0	0		
合計	1,622	407,773	465	139,675		
<p>施業計画対象森林の65%が杉であり、間伐対象森林はすべて杉である。</p>						
iii. 齢級別						
		施業計画対象森林		間伐対象森林		
	面積 (ha)	材積 (m ³)	面積 (ha)	材積 (m ³)		
5齢級以下	10	227	0	0		
6～10齢級	1,331	320,465	433	124,960		
11～15齢級	212	55,658	32	14,715		
16齢級以上	67	31,423	0	0		
合計	1,622	407,773	465	139,675		
<p>施業計画対象森林の82%が30年生～50年生となっており、間伐対象となっている森</p>						

	<p>林の平均樹齢は43年である。市町村森林計画における間伐率は30～40%となっており、10齢級で主伐が行われる計画であったが、実際は主伐が行えるような状態ではない。</p> <p>iv. 立木密度</p> <p>間伐対象森林の立木密度は1500本～2000本/haとなっており、8齢級～10齢級における標準的な立木密度である1000本/haを大幅に上回っている。また、収量比数は同様に標準的な収量比数は0.5程度であるのに比べ、本プロジェクトの対象となる森林は0.7程度と比較的高い水準となっている。以上より、間伐前において、本プロジェクトの対象森林は高密な状態であったといえる。</p>
	<p>B.1.3 排出削減・吸収の達成手段</p> <p>市町村森林計画における間伐においては、30%～40%の間伐率により比較的40年生～50年生ぐらいでの主伐を計画しているが、本プロジェクトにおいては、木材価格の低迷を受け、施業計画の長期方針として、長期的な主伐をベースとし、80年生～90年生まで育成させる計画をたてており、中期的には森林施業計画に基づき、間伐対象小班ごとに約5年ごとに20%ずつ計画的な間伐を実施することで森林のCO2吸収量を増加させる。間伐方法は、画一的に一定間隔で選木する機械的間伐(列状間伐)をベースに行うとともに、形質の悪い林木を主体に選木する下層間伐を行うものとする。なお、プロジェクト対象の間伐を予定している森林の種類は杉である。</p>
<p>CO2吸収削減</p>	<p>（注）この欄は適用する設備・機器等</p>
<p>実施事業の 地域 実施場所</p>	<p>実施事業の 地域 実施場所</p> <div data-bbox="683 1339 912 1444" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>記入不要</p> </div>

B: プロジェクト活動の概要②	
B.4 プロジェクト期間	2008年4月1日～2013年3月31日(6年0ヶ月)
B.5 クレジット期間 ※1: クレジット期間	2008年4月1日～2013年3月31日(6年0ヶ月)
B.6 想定排出削減・吸収量の算定根拠 ※2: 算定根拠	記入不要
B.7 モニタリング報告の頻度	年1回を予定
B.8 補助金 ※3: 補助金	記入不要
B.9 他制度への申請 ※4: 他制度への申請	記入不要
備考	<p>森林火災、気象災害、病虫害やこれらに伴う排出量がプロジェクトの吸収量を上回るリスクが考えられるが、プロジェクトを3地域に分散し、天変地異等のリスクを分散している。</p> <p>一方、森林火災、気象災害、病虫害が起らないようにするため、プロジェクト対象地について森林管理会社の定期的なチェックなどが行われる。</p>

※1: クレジット期間は、2008年4月1日～2013年3月31日の間で設定すること。
 ※2: 想定排出削減・吸収量の算定根拠をモニタリングプランで提示すること。
 ※3: 海外のVER制度や都道府県等のCO2吸収量認証等、類似制度への申請の有無を記入。これは、一つのプロジェクトによる排出削減・吸収量に基づくクレジットが複数創出される等の、ダブルカウントを避けるためである。

方法論の適用	
① 土地利用、土地利用変化及び林業	記入不要
② 燃焼	記入不要
③ 土地利用変化及び林業と燃焼の相互作用	記入不要
④ 燃焼以外の土地利用変化	記入不要
⑤ 燃焼以外の土地利用変化と燃焼の相互作用	記入不要
⑥ 燃焼以外の土地利用変化と燃焼以外の土地利用変化の相互作用	記入不要
⑦ 燃焼以外の土地利用変化と燃焼以外の土地利用変化と燃焼の相互作用	記入不要
⑧ 燃焼以外の土地利用変化と燃焼以外の土地利用変化と燃焼と燃焼以外の土地利用変化の相互作用	記入不要

C.3 適用するガイドライン等	C.3.1 ガイドライン等への準拠	(オフセット・クレジット(J-VÉR)制度モニタリング方法ガイドラインに準拠しない場合の説明)						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="550 376 790 421">準拠の説明</th> <th data-bbox="790 376 1396 421">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="550 421 790 470"><input type="checkbox"/> 全く準拠しない</td> <td data-bbox="790 421 1396 470"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 470 790 519"><input type="checkbox"/> 一部準拠しない</td> <td data-bbox="790 470 1396 519"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 519 790 568"><input checked="" type="checkbox"/> 全て準拠する</td> <td data-bbox="790 519 1396 568"></td> </tr> </tbody> </table>	準拠の説明	説明	<input type="checkbox"/> 全く準拠しない		<input type="checkbox"/> 一部準拠しない	
準拠の説明	説明							
<input type="checkbox"/> 全く準拠しない								
<input type="checkbox"/> 一部準拠しない								
<input checked="" type="checkbox"/> 全て準拠する								
注) 全て準拠する場合は、説明は不要。								

		(オフセット・クレジット(J-VÉR)制度モニタリング方法ガイドラインのモニタリングパターンを選択する場合)																		
	C.3.2 ガイドライン等が複数ある場合の選択	<table border="1"> <thead> <tr> <th>モニタリングパラメータ</th> <th>モニタリングパターン</th> <th>選択の理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動量</td> <td><input type="checkbox"/> 森林 GIS</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 実測</td> <td>補助金を受給しており、その前提として実測による活動量の測定が行われており、補助金受給時における実測値を利用することが、不確実性の評価を含めて適切であると判断したため(【資料 1-S】補助金受給根拠参照)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">拡大係数</td> <td><input type="checkbox"/> 実測</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 公表資料、学術論文等</td> <td>「京都議定書 3 条 3 及び 4 の下での LULUCF 活動の補足情報に関する報告書 3」に基づく拡大係数の利用が他のプロジェクトとの比較可能かつ公平な数値であり、適切に不確実性を評価できると判断したため。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">収穫予想表</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> システム収穫表 (LYCS 等)</td> <td>収穫表作成システム LYCS(ライクス)により本プロジェクト対象地に近い土佐地区における適切な収穫表が作成できると判断したため。(【添付資料】LYCS 収穫表_千本、蔭谷、大谷山)</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 文献・資料(行政機関の資料・学術論文等)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	モニタリングパラメータ	モニタリングパターン	選択の理由	活動量	<input type="checkbox"/> 森林 GIS		<input checked="" type="checkbox"/> 実測	補助金を受給しており、その前提として実測による活動量の測定が行われており、補助金受給時における実測値を利用することが、不確実性の評価を含めて適切であると判断したため(【資料 1-S】補助金受給根拠参照)	拡大係数	<input type="checkbox"/> 実測		<input checked="" type="checkbox"/> 公表資料、学術論文等	「京都議定書 3 条 3 及び 4 の下での LULUCF 活動の補足情報に関する報告書 3」に基づく拡大係数の利用が他のプロジェクトとの比較可能かつ公平な数値であり、適切に不確実性を評価できると判断したため。	収穫予想表	<input checked="" type="checkbox"/> システム収穫表 (LYCS 等)	収穫表作成システム LYCS(ライクス)により本プロジェクト対象地に近い土佐地区における適切な収穫表が作成できると判断したため。(【添付資料】LYCS 収穫表_千本、蔭谷、大谷山)	<input type="checkbox"/> 文献・資料(行政機関の資料・学術論文等)	
モニタリングパラメータ		モニタリングパターン	選択の理由																	
活動量		<input type="checkbox"/> 森林 GIS																		
		<input checked="" type="checkbox"/> 実測	補助金を受給しており、その前提として実測による活動量の測定が行われており、補助金受給時における実測値を利用することが、不確実性の評価を含めて適切であると判断したため(【資料 1-S】補助金受給根拠参照)																	
拡大係数		<input type="checkbox"/> 実測																		
	<input checked="" type="checkbox"/> 公表資料、学術論文等	「京都議定書 3 条 3 及び 4 の下での LULUCF 活動の補足情報に関する報告書 3」に基づく拡大係数の利用が他のプロジェクトとの比較可能かつ公平な数値であり、適切に不確実性を評価できると判断したため。																		
収穫予想表	<input checked="" type="checkbox"/> システム収穫表 (LYCS 等)	収穫表作成システム LYCS(ライクス)により本プロジェクト対象地に近い土佐地区における適切な収穫表が作成できると判断したため。(【添付資料】LYCS 収穫表_千本、蔭谷、大谷山)																		
	<input type="checkbox"/> 文献・資料(行政機関の資料・学術論文等)																			
		注) 選択理由の説明においては、証拠書類等の該当箇所が明確になるよう、対応ページ・箇所の明示を行うこと。なお、説明に使用した資料は、名称及び添付資料番号を明記し、巻末の添付資料一覧に整理すること。																		
C.4 プロジェクトが実施されなかつ	C.4.1 ベースラインシナリオの特定	(プロジェクトが実施されなかった場合の状態(ベースラインシナリオ)の説明) 森林を適切な状態に保つために必要な間伐が 2007 年度以降に実施されていない状態。																		

た場合の状 態(ベースラ インシナリ オ)	(ベースラインシナリオ特定に使用したデータの信頼性・入手可能性)	
	データの信頼 性・入手可能性	説明
	<input type="checkbox"/> 低い	
	<input checked="" type="checkbox"/> 低くない	
	(森林施業計画通りに施業を実施しない可能性に関する情報)	
	施業計画通りに実 施しない可能性	説明
	<input type="checkbox"/> 可能性がある	
	<input checked="" type="checkbox"/> 可能性がない	
	(プロジェクトの対象である森林が転用される可能性に関する情報)	
	転用の可能性	説明
<input type="checkbox"/> 可能性がある		
<input checked="" type="checkbox"/> 可能性がない		

C.4.2BLS に 関連した温 室効果ガス 排出源・吸収 源の特定		(温室効果ガス排出源・吸収源)						
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">温室効果ガス排出源・吸収源</th> <th style="width: 40%;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>森林プロジェクトで対象となる排出源・吸収源</td> <td>地上部バイオマス、地下部バイオマス</td> </tr> <tr> <td>上記に含まれないプロジェクト固有の排出源・吸収源</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table>	温室効果ガス排出源・吸収源	説明	森林プロジェクトで対象となる排出源・吸収源	地上部バイオマス、地下部バイオマス	上記に含まれないプロジェクト固有の排出源・吸収源	なし
	温室効果ガス排出源・吸収源	説明						
	森林プロジェクトで対象となる排出源・吸収源	地上部バイオマス、地下部バイオマス						
	上記に含まれないプロジェクト固有の排出源・吸収源	なし						
		リークージに関しては、以下のリストから該当するものがあればボックスにチェックを入れること。また、チェックしたリークージは、モニタリングプランにおいて定量化すること。						
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">リークージの種類</th> <th style="width: 50%;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外での吸収量を減少させる活動の増加 </td> <td style="text-align: center;">該当なし</td> </tr> <tr> <td> <input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外における排出量を増加させる活動の増加 </td> <td style="text-align: center;">該当なし</td> </tr> </tbody> </table>	リークージの種類	説明	<input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外での吸収量を減少させる活動の増加	該当なし	<input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外における排出量を増加させる活動の増加	該当なし	
リークージの種類	説明							
<input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外での吸収量を減少させる活動の増加	該当なし							
<input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外における排出量を増加させる活動の増加	該当なし							
	(温室効果ガス排出源・吸収源を特定するために使用した追加的な基準)							
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">温室効果ガス排出源・吸収源特定のための追加的な基準</th> <th style="width: 50%;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/> 使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> 使用しない</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	温室効果ガス排出源・吸収源特定のための追加的な基準	説明	<input type="checkbox"/> 使用		<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない		
温室効果ガス排出源・吸収源特定のための追加的な基準	説明							
<input type="checkbox"/> 使用								
<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない								

C.5 排出量・ 吸収量の定 量化	C.5.1 不確か なデータの使 用	(吸収量の定量化における不確かなデータの使用)	
		不確かなデータの使 用	説明
		<input type="checkbox"/> 使用する	(不確かなデータを使用することによる吸収 量の過大評価がないことを説明すること。)
		<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない	
	C.5.2 モニタリ ング対象とな らない排出 源・吸収源	(モニタリングプランを作成する上で、モニタリング報告対象とされないプロジェクト固有の排出源・吸収源が存在する)	
		モニタリング報告対象とな らないプロジェクト固有の排出 源・吸収源	説明
		<input type="checkbox"/> 存在する	
		<input checked="" type="checkbox"/> 存在しない	
C.6 備考			

※1: ポジティブリストの条件を全て満たすことを、証拠書類等をもとに説明する。説明にあたっては、証拠書類等の該当箇所が明確になるよう、対応ページ・箇所の明示を行うこと。なお、説明に使用した資料は、名称及び添付資料番号を明記し、巻末の添付資料一覧に整理すること。

〇〇の地	
〇〇の地 〇〇の地	〇〇の地 〇〇の地
〇〇の地 〇〇の地 〇〇の地 〇〇の地	記入不要
〇〇の地 〇〇の地	